■強い者が勝つ、そして、

強い者は同じく強い者の味方をする

修正：　2022.01.01

投稿：　2022.01.01

●強い者が勝つ、そして、強い者は同じく強い者の味方をする①

自然界は**「弱肉強食」**であり、
弱い者は強い者に喰われるものです。
しかし「強い」と一言で言っても、そこには、
いろいろな種類の強さがあります。

言うまでもなく、動物界では体の力こそが強さです。
体の力は、体が大きい方が強い傾向にあり、ゆえに動物は、
自分よりも体の大きな相手との喧嘩は避けようとします。

もし縄張り争いで喧嘩になった際は、
「お前より俺の方が体は大きい！（｀・ω・´）」
と必死にアピールします。

しかしこれは、人間界では通用しません。
社長の後継者を誰にするかというときに、
「よし、じゃ～、一番身長の高いそこの君！（ ｀ー´)ノ 」
などという展開にはなりません。

いくら体力があっても社長は務まらないからです。
では何を以て判断するかというと、
強いて一言で言えば「頭の良さ」でありましょう。

想像力、先見性、判断能力、管理能力、
コミュ力、思想の深さ、人格の高さ、などなど、
知的な力こそが人間たるための力です。

フランスの哲学者パスカルは、著書「パンセ」で、
「人間は考える葦(あし)である」と言いました。

宇宙から見ると、人間は葦のようにか弱い存在ですが、
頭を使って**「考える」**という点においては、
宇宙よりも偉大な存在である、というようなことが説かれています。

熊からすれば、格闘家の渾身の一撃も**「ねこぱんち」**にすぎませんが、
それでも、熊より遥かに腕力の弱い人間が、地球を支配しています。
「考える」という点で**圧倒的**だからです。

もしゴキブリが人間よりも知能が高くなってしまえば、
人間はゴキブリに支配されてしまうことでしょう…。

（続）

//==========//

●強い者が勝つ、そして、強い者は同じく強い者の味方をする②

政治や経済、裁判やスポーツなどなど、様々な場面において、
決して「正しい者」が勝つのではなく、**「強い者」**が勝ちます。

裁判は「正しさ」を追求する場だと思われているかもしれませんが、
裁判とは正しいと「思わせた方」が**勝つ**場です。

とある女子高生の話ですが、
何度か校則を破るような行いをしていました。
学校側も不良だとして手を焼いてはいましたが、
退学になるほどのことではありませんでした。しかしある日、

学校側から一方的に退学処分を受けることになりました。
これに反発した女子高生とその友人(友人も退学処分)は、
家族の助けを借り、学校を**訴える**ことにしました。

「退学処分は間違っている(本当に不当)」
ということを知っていた女子高生は、
「私が正しいのだから裁判で負けるはずがない！」

と思っていたそうです。が、

学校側のあたかも真実と思わせる主張や
これまでの女子高生の素行の悪さを突かれ、
女子高生側は不利な状況に追い込まれました。

マスコミも学校側に味方し、世間の風当たりが強くなり、
友人がその向かい風に負け、裁判を降りつつある中、
最終的に学校側が和解(金で解決すること)を提案し、
半強制的にこれを受け入れる形で、幕を閉じました。

正義が勝つとは言っても、勝つためには力が必要であり、
結局、力あるところから力を借りなければなりません。
そして、強い者の主張だけが受け入れられ、
やがてそれが正しくなっていく、と言うのが歴史の流れです。

（続）

//==========//

●強い者が勝つ、そして、強い者は同じく強い者の味方をする③

強い人は同じく強い人と仲良くなり、
弱い人は同じく弱い人とでしか仲良くできません。
多くの人がクラスメイトから学んだことでしょう。

で、その**「強い・弱い」**が何なのかと言うと、
人に与えることができるかできないか、の違いです。
与える人は強く、奪う人は弱い、それだけのことです。

「与えたいかどうか」ではなく「できるかどうか」であり、

決して気持ちの問題ではなく、能力の問題です。加えて、
相手があなたを認めるか、という点も重要です。

そして「与える人」も、もちろん、
人を**見捨てる**決断はします。むしろ、
奪う人よりあっさりしているくらいです。
与える人の方が冷たいかもしれません。

逆に奪う人は、与えてくれる人から奪うだけですので、
縁切りされると損をします。よって、何とか関係を
続けようとしますが、結局、手は切られるものです。
するとまた新しい**獲物**を探さなければなりません。

この人脈を入れ替える手間はコストです。ゆえに、
奪う人は、最初は得をしますが長期的には損をします。対して、
与える人は、奪う人と巡り合ってしまうこともあり、
最初は損をすることもありますが、最終的には得をします。
与える人同士で強い関係を構築できるからです。

「与える人」とは言っても、誰にでも与えるわけではありません。
与える相手は選びますし、繋がる人も選びます。
「来る者は拒まず」が理想かもしれませんが、
縁を作らないことでよりよい関係が構築できるのも事実です。

こうして、人生の勝ち組と負け組に
綺麗に住み分けされていくのです。
学校でも、会社でも、どこでも、です。

（完）

//==========//

Web サイト：

心を力学する　―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)